

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、中国を中心とする東アジアの通史について概括的に扱う。大学入学までに学習してきた世界史(特に中国史)の内容を復習するだけでなく、そこでは扱われなかったやや高度な要素も積極的に扱う。具体的には、事件・人物・制度などに関する歴史資料を読み解いたり、歴史の背後に隠れた事実注目したり、研究者が直面している最新の問題点についても、可能な限り言及する。これにより、歴史的知識を受動的に学習するだけでなく、歴史の中に潜む疑問点や問題点を自ら探し出せる目を養ってもらいたい。

また、本講義で中心的に扱われるのは「東洋史」だが、東洋史以外のテーマ(日本史・西洋史・考古学・地理学・美術史など)に興味のある学生にも配慮し、「王朝とは何か」、「権力とは何か」、「歴史と地理にはどのような関連性があるのか」、「歴史と文化にはどのような関連性があるのか」など、ある程度汎用的なテーマについても積極的に問題を提起していく。史学科で学修できる学問は多種多様だが、それらは相互に密接に関連していることも事実である。「自分が興味のあるテーマだけ勉強していればよい」という考えは捨て、さまざまなテーマに興味を持ってもらう、そのきっかけとなるような講義になるよう努めたい。

後期では、モンゴル帝国の崩壊から現代中国までの歴史を扱う。

2. 授業の到達目標

- ・中国を中心とする東アジアの歴史を通時代的に理解する
- ・中国の歴史を手がかりに、自分の関心がある他地域・他時代の歴史的テーマに関する問題意識を深めることができる

3. 成績評価の方法および基準

- ・確認テスト・コメントペーパー40%
- ・中間レポート30%
- ・期末レポート30%

4. 教科書・参考文献

教科書

特になし

参考文献

「世界の歴史」編集委員会編 新もういちど読む山川世界史 山川出版社、2017年

木村靖二ほか編 詳説世界史研究 山川出版社、2017年

木村靖二ほか編 もういちど読む山川世界史PLUS—アジア編 山川出版社、2022年

木村靖二ほか編 もういちど読む山川世界史PLUS—ヨーロッパ・アメリカ編 山川出版社、2022年

5. 準備学修の内容

- ・教科書を用いて毎回の授業の予習をしておくこと。
- ・授業終了後、配布プリントなどを見直し、授業内容の概要について振り返るクセをつけておくこと。

6. その他履修上の注意事項

- ・私語など、他の受講者の迷惑になるような行為は控えること。
- ・授業内容をただ鵜呑みにするのではなく、その中から積極的に疑問点や問題点を探し出すように努めること。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス *オンライン
- 【第2回】 パクス・モンゴリカと帝国の崩壊・継続:モンゴル帝国2、元
- 【第3回】 南人政権の克服と靖難の役と永楽帝の登場:明1
- 【第4回】 北虜南倭と大航海時代と豊臣秀吉・満洲族:明2
- 【第5回】 入関と康熙・雍正・乾隆:清1
- 【第6回】 アジア諸帝国の形成と世界の一体化と帝国主義
- 【第7回】 中間レポート出題およびレポート作成指導
- 【第8回】 アヘン・アロー戦争の衝撃:清2
- 【第9回】 膨張する太平天国と迷走する「近代化」:清3
- 【第10回】 暴走する救国精神と変わらない皇帝支配:清4
- 【第11回】 辛亥革命:中華民国1
- 【第12回】 交わらない国共と侵略する日本:中華民国2
- 【第13回】 日中戦争の展開と国共内戦の再開:中華民国3
- 【第14回】 社会主義と資本主義のはざままで:中華人民共和国
- 【第15回】 総括 ※オンライン